

学 校 経 営 計 画 (4月)				評価 (3月)	
学校運営方針		教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、心身ともに逞しく、豊かな人間性と創造性を備え、国家の繁栄と人類の平和に寄与する生徒を育成する。		A	
昨年度の成果と課題		今年度重点目標			
<p>教育活動全体を通して嘉穂高生としての自覚を持たせ、人としての「氣高さ」を有する生徒の育成に向けた指導を充実させることができた。</p> <p>授業改善を図り、生徒の第一進路希望実現に向けた学力の向上を図る。</p> <p>歴史と伝統を踏まえ、中高一貫教育校としての新しい学校づくりに取り組み、地域の期待に応える教育活動を実践していく。</p>		<p>1 嘉穂高生としての強い自覚を持ち、人間としての「氣高さ」を有する生徒を育成する。</p> <p>2 文武両道の精神を重んじ、豊かな情操とともに、逞しく生きるための知力・体力・精神力を備えた生徒を育成する。</p> <p>3 真理と正義を愛し、生命あるものを尊び、「思いやりの心や共に生きる心」と「人権」を尊重する生徒を育成する。</p> <p>4 日本文化と伝統を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、社会の発展に貢献せんとする「志」のある生徒を育成する。</p> <p>5 高い目標を掲げて粘り強く努力し、将来の地域や日本を担う、強いリーダーシップを持つ生徒を育成する。</p> <p>6 広い視野を持ち、国際社会で信頼されるために必要なコミュニケーション能力や異文化を理解する態度を備えた生徒を育成する。</p>			
各 部		今年度重点目標			
1 教務部		豊かな創造性と個性に富み、積極的に自己実現を目指し、あらゆる機会をとらえ「学び続ける意欲」と「粘り強さ」を備えた「衝天の意気」を有する生徒を育成する。			
2 生徒指導部		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念や豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊ぶ等の道徳性を身に付け、人間としての「氣高さ」を有する生徒を育成する。			
3 進路指導部		真理と正義を愛し、常に高い目標を掲げて、何事にも真摯に取り組む姿勢と確かな学力を身に付けるとともに、広い視野と行動力を持ち、社会や地域の発展に貢献せんとする「志」ある生徒を育成する。			
4 研修部		教師の教科指導力や生徒指導力等を高め、PTAや同窓会を中心とした地域の教育力を活用し、人間としての「氣高さ」を追求するとともに、嘉穂高生としての気質と確かな学力を兼ね備えた生徒を育成する。			
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	教務課	1 生徒の第一進路希望実現に向けて、学習指導要領に対応した教育課程・授業・家庭学習のあり方を研究する。	1 生徒の第一進路希望実現に向けた学習活動をさらに充実させるため、学習指導要領に対応した効果的な教育課程を研究する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度入学生からSSH指定後のカリキュラムに移行するため、この5年間で培った指導方法や内容を新しい科目に生かす。 生徒の家庭学習時間を増加させるための方策を考え、全教員が共通理解のもとで一貫した指導を行う。
		2 生徒の自主的な学習習慣の確立および教員の教科指導力の向上を図り、生徒の学力を向上させる。	2 自主的な学習習慣の確立に向け、定期的に学習時間調査を実施し、1日平均3時間以上の家庭学習時間を達成する。	B	
3 中高が相互のカリキュラムを認識し、6年間を見通した教科指導の内容と教授法を研究する。	3 高校と中学で教科指導の内容を共有し、それぞれの教授内容が有機的に結合するように定期的に協議する。	B			
4 中高が相互のカリキュラムを認識し、6年間を見通した教科指導の内容と教授法を研究する。	4 SSHに係る教育課程における学校設定教科・科目の評価・検証を行い、今後の方向性と方策を考える。	A			
図書部	図書課	1 生徒の読書意欲を喚起するために校内向け広報誌の紙面を充実させ、図書館の利用者を増やす。	1 「図書館だより」に各クラスの利用状況などを載せ紙面の充実を図るとともに、月1回の発行を目指し図書館利用の推進力になるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の意義を理解させ、教員全員で朝読書に集中させる雰囲気を作る。 朝読書で、読書意欲を高め、小論や進路に関わるような読書を勧めるよう工夫する。 図書委員を活用して、高校生の図書館利用者を増やすための工夫をする。
		2 朝読書の意義を理解させ、静かに集中して読書をする習慣をつけさせる。	2 年度当初に生徒、教員ともに朝読書の意義を説明し、全員で朝読書に取り組み、生徒の読書意欲の喚起に努める。	B	
		3 中学生のための図書を充実させ、中学生の利用促進を促す。	3 図書委員にポップなどを作成してもらい、中学生用の本コーナーに飾るなど中学生にも利用しやすいように工夫する。	A	
		4 保存用の資料収集を徹底し、管理の仕方を見直す。	4 資料収集に関して、徹底して呼びかけるとともに、収集した資料が利用しやすいように整理し、紛失などを確実に防ぐ。	A	

	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務部	キャリア教育課	1 中高一貫に伴い6年間を見通したキャリア教育及び進路指導のあり方を研究する。	1 中学校と連携し、6年間を見通したキャリア教育プログラムを作成し、実施する。	A	A	中学・高校のキャリア教育プログラムを策せることができたので、来年度以降、その計画に基づいて「総合的な学習の時間」を実施していく。中学と高校のプログラムが一貫性をもつように、双方の取組を確認していく。
		2 3年間を見据えた「総合的な学習の時間」の計画を立てる。	2 これまでの「総合的な学習の時間」の内容を整理し、発達段階に応じた進路指導を計画し、全職員の共通理解のもとで実施する。	A		
		3 生徒が早期の進路設計を行えるようキャリア教育に関する指導体制を整える。	3 生徒の興味・関心に応じた他分野の社会人講演会・交流会など新しい行事を積極的に実施し、明確な進路設計を行えるシステムを作り上げる。	A		
生徒指導部	生徒指導課	1 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の基本に据え、嘉穂高生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒を育成する。	1 全校朝礼・始業式・終業式において国歌・校歌を斉唱させ、規律や礼節を重んじ、気高さや品位に満ちた態度を養う。生徒会を中心に潤陵祭・運動会等の学校行事の質的向上と指導力の育成を図る。	A	A	・生徒会役員の意識の向上を図り、学校の牽引者としての自覚を持たせ、学校を活性化させる。 ・問題行動等に対し後手に回らず、教員が問題を起こさせない指導、環境づくりを行う。 ・附属中学校と密に連携をとり、円滑な行事の運営を図る。 ・部活動生によるボランティア活動や、送迎や交通マナーの向上を図り、地域から信頼される学校づくりを行う。
		2 自立心と思いやりの心、逞しさを身に付けた生徒の育成に努める。	2 非行防止講演会・風紀検査・登校指導に全職員で定期的に取り組み、風紀の向上・規範意識の向上に努め、特別指導0を目指す。	B		
		3 規範意識に優れ、自浄能力を持つ学校及び生徒の育成に努める。	3 交通安全講話・自転車点検・駐輪場指導を実施し、登下校時のマナー(自転車マナー・送迎マナー等)の向上を図り、交通事故0を目指す。	A		
		4 生徒会を中心に学校行事の企画・運営を行い成功させる。	4 学期に1回の部活動集会を実施し、部活動や学校生活の在り方を振り返らせ、学校の牽引者としての意識を培う。	B		
生徒指導部	保健課	1 自己の健康状態を把握し、健康の保持増進を確立できる生徒を育成する。	1 スクールカウンセラーによるカウンセリングを年に9回実施し、生徒・保護者の心の健康を図る。	A	A	・スクールカウンセラーを活用し、学校不適應の予防と早期対応に努める。 ・特別に支援を要する生徒へ、合理的配慮を行う。 ・美化委員会を活性化させ、生徒自らが校内美化を心がけ実行できるような形づくりを行う。
		2 生徒の心の健康を図り、自己の健康管理意識の高揚を図る。	2 健康に関する相談事業を学校行事にあわせて適宜実施し、生徒の充実した学校生活をサポートする。	A		
		3 特別な教育的支援を必要とする生徒への支援を推進する。	3 特別な教育的支援を必要とする生徒への支援を推進するため、AED(自動体外式除細動器)の研修やアナフィラキシー補助治療剤アドレナリン自己注射薬 エピペンの研修を行う。	A		
		4 美化活動をとおして、愛校心や公共物を大切にす精神を育む。	4 安全点検を全職員で各学期に1度行う。	A		
			5 美化委員会と連携しながら、美化コンクールを通じた校内美化と、ゴミの減量化を推進する。	B		
進路指導部	進路指導課	1 社会や地域に対して常に貢献できる人材をつくり、希望進路に向けて努力する姿勢を育成する。	1 進路講演会やキャリア教育を実施することで、適切な進路情報の提供を行い、生徒や保護者の進路意識を高めていく。	A	A	・今年から導入したキャリア講演はとても評判が良かった。 ・スタディサポートの時期を変えてうまく活用していく。 ・GTTC等を進路指導部主導に変えていく。 ・教育活動全体を通じて、コミュニケーション能力を高めるための活動を積極的に取り入れる。
		2 進路表現のための学力を身に付けることのできる生徒を育てる。	2 課外授業・土曜講座・模擬試験を効果的かつ効率的に企画することで、生徒の第一志望への進学を増やす。	B		
		3 自他の人権や生命をしっかりと尊重し、積極的に行動できる生徒を育成する。	3 自他の人権を尊重する意識や態度を育成するため、年4回の人権教育授業やホームルーム活動を通して、生徒への働きかけを継続して行う。また職員研修の充実を図り、職員の人権感覚を高める。	A		
進路指導部	情報課	1 パソコン教室の有効利用	1 パソコン教室の稼働率を高め、空き時間ができないように努める。	A	A	・次年度はパソコン教室での教科情報の授業時数が減り空き時間が増えるので、他教科のパソコン教室の活用を推進する。 ・CMSで作成している学校ホームページを誰でも更新できるように、CMSでの編集方法を全教職員に周知する。
		2 普通教室でのICT機器の活用	2 普通教室でのパソコンやプロジェクタ等ICT機器を活用した授業を推進し、同一時間に複数教室で展開し、延べ利用時間数の増大を図る。	A		
		3 校務用ネットワークの有効活用	3 教材作成や校務に必要な不可欠なソフトウェアや周辺機器を校務用パソコンで利用できるように整備を進める。	A		
		4 学校HPの刷新	4 本校のHPを刷新し、職員だれもが適時に簡便にCMSを利用した更新を行えるシステムに改善する。	B		
研修部	企画広報課	1 関係機関との連携を図りながら、校内における庶務全般を円滑に行う。	1 職員の座席・ロッカー・戸棚、靴箱等の割り振りを行い、職員室の環境作りに努める。また、食堂への校時変更、行事の連絡、職員会議の記録など庶務全般を円滑に行う。	A	A	・校内の環境を職員の意見を取り入れ、活気ある教育活動ができるよう整備する。 ・防災避難訓練の早期計画と関係機関との連絡、打ち合わせを綿密に行い、意義深いものにする。 ・本年度実施した体験入学の内容をもとに、各中学校への案内時期、実施内容、運営方法などを定着させ、充実させる。
		2 防災教育の推進。	2 従来実施している避難訓練を再点検し、地震に対する避難訓練を加え防災非難訓練の充実を図る。また、防災マニュアルを周知徹底することにより実践的な自主防災活動を推進する。	B		
		3 中学校等への広報活動計画を行い、実施する。	3 中学生の体験入学、中学生進路相談事業の内容を充実させる。ポスター・カレンダーを作成し中学校、塾等の訪問を積極的に行う。	B		
		4 PTAを中心とした地域社会と良好な連携を強化し、幅広い教育を活用して、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成に寄与する。	4 各委員会活動の活性化を図る。学校評議員会や学校関係者評価委員会をとおして、地域の声を取り入れ、学校教育に生かす。	A		

	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
研修部	研修課	1 「氣高さ」を有する生徒を育成するための指導力の向上を目指して各分掌・学年と連携を図りながら、有意義かつ計画的な研修体制を確立する。 2 「力をつける授業」をキーワードにし、生徒・保護者・地域の進学実績向上を目指す。	1 校内研修(生徒指導、進路指導等に関する研修)を年に4回実施する。	A	A	・校内研修は、職員からの要望も取り入れて実施する。 ・校外研修への参加は、今後積極的な呼びかけを継続して行い、参加率を向上させる。 ・研究授業3ヵ年計画に代わるものとして各教科から毎年3名程度の研究授業対象者を決めて取り組む。
			2 校外での各種研修への参加率80%以上を目指し、案内を強化し、積極的参加を促す。	B		
			3 定期考査や模擬試験の結果をもとに各教科で教授法等の検証を行い、成績分析会等の実施率を100%とする。	A		
			4 研究授業3ヵ年計画の3年目であるので、この3年間で各教科で全員の教師が研究授業を終了させる。	A		
第1学年	1 規律を重んじ、他者への思いやりを大切に、集団に寄与する姿勢を持った生徒の育成 2 基本的な生活習慣を確立し、自律した生活ができる生徒の育成 3 授業を大切に、家庭学習を習慣化して、自ら学ぶ姿勢をもつ生徒の育成 4 自分の進路を真剣に考え、その実現のために素直な姿勢で努力する生徒の育成	1 時間を厳守させ、授業や日常生活の中で、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどを徹底させ、社会で通用するマナーとエチケットを身につけさせる 2 部活動や行事活動に積極的に取り組ませて幅広い人間関係を構築させる。また、学年独自の委員会活動等も積極的に取り入れ、リーダーの発掘・育成に努める。 3 面談週間等を利用して生徒個々の把握に努め、信頼関係を築くと共に、家庭での学習を含めた基本的な生活習慣を確立させる。 4 総合学習やLHRを有効に活用し、キャリア教育課と連携して3年間を通じた進路指導を計画的に進めていく。	B	A	・授業規律を徹底し、集中した授業態度で基礎学力の定着をはかる ・「より主体的な学習への転換」を図り、考査前学習及び日常の家庭学習を充実させる ・日常生活の中での言動や行動に責任を持たせ、他者への思いやりを培う ・集会や学年行事などに生徒主導の場面を作り、リーダーの発掘、育成に努める	
			A			
			B			
			A			
第2学年	1 進路実現に向けて、地道に努力しようとする生徒の育成 2 嘉穂高生としての誇りを持ち、自覚を持って行動できる生徒の育成 3 下級生の模範となろうとする生徒の育成 4 嘉穂高校の次代を担うリーダーの育成 5 元気の挨拶に象徴される、若者らしい深刺とした生徒の育成	1 学力向上に向けての取り組みを積極的に取り入れていくとともに、その参加を促す過程で生徒の意識変革を迫る。 2 「上級生としてのあるべき姿」を機会ある毎に話して聞かせ、下級生の模範となろうとする生徒を育成する。 3 昨年同様、生徒主体で運営する活動を極力設け、確かな指導力を持ったリーダーの育成に努める。 4 正しい言葉遣い、元気な挨拶、授業規律の確立等、もう一度原点に立ち返り徹底した指導を行う。 5 クラスの円滑な人間関係の醸成の一助として、グループエンカウンターを組織的・計画的に実施する。	A	A	添削指導、短期講座、朝課外を習熟度別に実施するなど、可能なところで学力向上の取り組みを行ってきた。次年度は、特に英語力向上の取り組みを強化したい。 生徒会・応援団は学年のリーダーとしてよく頑張っている。「上級生としてどうあるべきか」の指導を徹底し、本来あるべき「嘉穂」に少しでも貢献したい。	
			A			
			A			
			B			
			A			
第3学年	1 進路意識を高め、将来の展望を明確にさせる。 2 基本的な生活習慣の確立に努めさせ、マナーアップ精神の更なる向上を目指す。 3 学校行事に積極的に参加し、嘉穂愛を育む。	1 新課程での入試情報を的確に把握し、HRや総合的な学習の時間を活用し、第一志望校合格に執着させる。 2 国公立大学130名(うち難関大学20名)の合格を目標とし、授業はもとより課外授業を充実させ、きめ細やかな指導を行う。 3 「元気 挨拶 マナー」を徹底させ、規則正しい生活習慣の確立に努めさせ、家庭学習時間の増加に努めさせる。 4 様々な学校行事を通して、リーダーシップや思いやりの心を育み、「誇り」と「信念」を意識した生徒を育成する。	A	A	・進路意識を高め、運動会後の切り替えはうまくいった。しかし、学習時間を確保させるために家庭学習習慣を1年次から確立させる取り組みが必要である。 ・学校行事ではリーダーシップを発揮できたので、今後は、上級生らしいマナーを徹底させたい。	
			A			
			B			
			A			
理数科	1 特進クラスとしての位置づけを校内外で明確にし、個々の生徒の学力を伸ばさせることにより進路希望の実現を図る。 2 研究者を中心にした講演・実習など生徒の将来をしっかりと見据えた取組を強化する。 3 様々な場面で学校を牽引していこうとするリーダーシップと創造力・企画力を養う。	1 難関大学及び医・歯・薬学部の合格者15名以上を目指し、個に応じた学習及び生活指導を徹底的に行う。 2 2年生終了時点で全員に明確な進路希望が持てるように指導する。 3 課題研究に関しては、内容の充実を図るために課題設定の時期と中間成果発表の実施時期を早期に行うとともに、2年次からの意識付けを計画的に確実に実行する。	A	A	・課題研究については、各研究グループの指導者の努力により成果を上げているが、次年度以降に研究を継続させ、より高度な研究内容に発展させたい。他校との研究交流も効果的なので検討したい。 ・課題研究の取組により、学習意欲の向上やリーダーシップの育成が進み、生徒の将来に大いに役立っている。	
			A			
			B			
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)	1 大学等との連携や学校設定科目の充実を図り、科学技術への意識を高める。 2 SSH事業における生徒の主体的な活動や実績を広く地域に広報する。 3 SSH事業5年間の総括を行い、その成果と反省を今後活かす。	1 九州工業大学実習や課題研究を通して、主体的に考え、行動していく姿勢を養い、各種発表会へ積極的に参加していく。 2 SSH講演会やチャレンジセミナー等の研修内容を充実させ、最先端の科学技術に対して見識を深めていく。 3 SSH事業の取り組みを成果発表会やSSH通信を通して、中学校や塾、地域の方々に積極的に広報していく。 4 これまでの取り組みをアンケートや運営指導委員会等を通して、振り返り、今後の嘉穂高校の教育活動に活かしていく。	A	A	・SSH事業を通して、科学技術に関する生徒の興味・関心を高めていくことはできた。今後はSSH事業を通して得ることができた指導法や中・高・大との連携をさらに充実させていく取組が必要となる。 ・広報活動に関してはSSH課だけでなく、他の分掌と連携して取り組む必要がある。	
			A			
			B			
			A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
武道・日本文化コース	1 わが国の伝統や文化を理解させる。 2 学力・競技力で高い志を持たせる。 3 武道・日本文化コースの生徒に相応した「氣高さ」を持つ生徒を育成する。 4 国際社会の一員として生きていく資質やコミュニケーション能力を育成する。 5 第一進路希望実現を図る。	1 わが国の伝統や文化を理解するために、学校設定科目を学習させ、特に「日本文化実習」の充実を図る。	A	A	・規範意識の向上、嘉徳高校生としての意識向上に更に取り組む。 ・評価については、職員間の共通理解を求め、特に、習熟度別授業におけるの確認を行うこと。 ・新入生オリエンテーション・集会、講演会の内容を充実させる。 ・進路意識を高めさせるような、キャリア教育を行っていく。 ・武道・日本文化コースの特色を出した行事を考えていく。
		2 習熟度別授業を取り入れ、生徒の学習モチベーションを高めるとともに、個に応じた指導の充実を図り結果を出す。	B		
		3 礼節を学ぶとともに、規範意識をもたせ、武道・日本文化コースの中から学年及び学校の核となる生徒を育成する。武道・日本文化コース集会を行う。	B		
		4 学校行事に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を育成する。また、講演を実施し、生徒の資質向上を図る。	A		
		5 高い目標を持たせ、卒業生による進路講演を行うなど進路実現に向けた指導を行う。	A		
確かな学力の育成	1 週33単位時間授業を効果的に行い、観点別学習状況の評価及び言語活動の視点を取り入れた授業を実施する。 2 評価規準を明確にし、指導と評価の一体化に学校全体として取り組む。 3 生徒の自主的な学習意欲の向上及び学習習慣の確立を図るとともに、教員の教科指導力をさらに向上させる。 4 現役での国公立大学合格者120名以上、難関大学30名以上を実現する。	1 新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、国立教育政策所が示した「評価規準作成、評価方法の工夫改善」を参考に評価規準の設定に取り組む。また、評価規準の設定を含めた指導と評価の計画、具体的な評価方法等について研究を行う。	B	A	・新学習指導要領での実施完成年度を経て、本校の実態と目標に沿ったものを各教科で再検討し、全職員で共有する。 ・定期考査・実力考査の問題精査や生徒の学習に対する取り組みの改善を通して確かな学力の育成に努める。 ・相互授業参観や校外公開授業への積極的な参加を呼びかけ、さらなる授業の研鑽を推奨する。
		2 生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていく。	A		
		3 相互授業参観や生徒による授業評価を積極的に活用し、教員の意識改革に取り組み、指導力の向上に努める。	A		
		4 学校全体が組織として、生徒の第一進路希望の実現に向け取り組めるよう、各分掌や学年が機能的に連携できるよう改革を促す。	A		
いじめの撲滅	1 職員間で「いじめ問題」の共通理解を図り、学校全体で問題に取り組む。 2 家庭・地域との連携を図り、「いじめ」の早期発見に取り組む。 3 保護者や関係諸機関と連携を図りながら、「いじめ問題」の早期対応に努める。 4 日頃から「いじめ問題」を防止する教育活動に努める。	1 携帯電話・インターネットを介したいじめ問題や非行防止に関する講演会等を行うとともに、職員研修をとおして、「いじめ問題」に対する理解を深め、「いじめ問題」への対応の共通理解を図る。	A	A	・1年生を対象に携帯電話・インターネット・SNSにおけるいじめ等の危険に関する講演会を1学期に実施する。 ・チェックリストを活用し、いじめの早期発見に努める。 ・今年度と同様に「いじめ対策委員会」を開き、事象への早期対応に努める。 ・人権・同和に関するHR活動で生徒の認識を深める。
		2 年に1-2回の学校生活アンケート及び年2回の家庭用チェックリストを集約し、生徒からのいじめのサインを早期に発見して、適切な対策を講じる。	A		
		3 「いじめ問題対策委員会」を開き、「いじめ」に対する緊急の対応及び中・長期的な対応を検討し実行する。	A		
		4 人権・同和に関するHR活動や日常の教育活動を通して、「いじめ」に対する認識を深め、被害者、加害者、傍観者の立場から生徒に考えさせる。	A		